

1. 出題背景

グローバルイゼーションとフラット化する世界をキーワードとした建築設計課題も、今年で3年目です。過去2年の課題を通して、問題群とその外延がずいぶんはっきりしてきたように思われます。1年目は、グローバルシティーにおける都市（再）開発プロジェクトが、経済政策を都市政策化した、所謂ネオリベリズム型都市開発の形式的合理主義によって、脱領域化、紳士化、透明化を促し、都市空間を画一化していく現状を考察しました。ジョージ・リッツのいう「マクドナルド化」による生産・消費構造の画一化に伴う、都市空間・都市文化の画一化傾向の露呈です。「効率性、計算可能性、予測可能性、制御」という要素で出来あがる都市空間は、少数専門官僚とテクノクラート等の知的労働者のための空間に変容され、排他的で、空間の多様性も形式的になりつつあります。またそこでは、経済主導のネオリベリズム型の都市の浸透に伴う、ローカルの不均衡も指摘されます。都市空間の分極化を推し進め、「透明性の幻想」のもとで多様な文化を排除する都市（再）開発プロジェクトが垂直な思考による打ち出されるのに対して、「bigandflat」と題する課題では、多様性の共存を求めてフラットな思考を対置してみせました。

昨年は、「外こもり」なる生活スタイルを例に、家族や土地に制約を受けない個人的で暫定的な住まい方が、ネット、コンビニ等のグローバルな環境と世界経済の不均衡が交錯するローカルの中からたち現れる様相を検討しました。そこでは、自由奔放な生活スタイルの出現を可能にする、脱領域化、脱社会化の進行をあらためて認識しました。そして、「ふらっと・ホーム」と題する課題では、フラット化する世界の諸相に目を凝らしつつ、われわれの生活にもたらす変化を感知しながら、可能なる住まいの提案を試みました。

本課題においても、イデオロギーとしてのグローバルイゼーション、政策としての新自由主義、今日的世界構成を著述するための空間的メタファーとしてのフラットを課題提出の背景としており、設計課題の挑戦は、グローバルイゼーションの流れに係留しながらも、フラットの思考を手がかりに、いかに新自由主義をのり超えてゆくのか、というところにあります。

2. 課題: 「Beyond FLAT SPACE」

情報技術と経済によって先導されるフラット化による建築・都市空間の変化は、商業空間において、如実に現れています。アメリカの建築家、メイソン・ホワイトは、アメリカ

のエックス・アーバン (exurban ; suburb と rural の混合地域) に出現するコマーシャル・コリドールの、弁当箱型ショッピング・モール、駐車場、アスファルトのランドスケープによって構成される空間を「フラット・スペース (Flat Space)」と命名しています。フラット・スペースは経済性と機能性の法則によって生成され、極度に管理され画一性が推し進められたその空間の経験は一様で、そこには不確定で開放系であるはずの公共空間が欠如しています。このような空間特色は、アメリカのエックス・アーバンコンディションに限った話ではなく、日本や上海でも、スウェーデンの家具ショップ I K E A 等に典型的に見てとれます。I K E A では 2 階のショールーム的なブラウジング空間と、1 階のセルフサービスの倉庫空間が一方通行路でつながれ、消費者の購買効率を上げるという唯一の目的により、高度に空間制御がなされています。

本課題の問いはこれらの、所謂マルク・オージェの言葉を借りるなら「ノン・プレイス (non place)」なる場所、そしてグローバリゼーションの進行とともに拡大しつつあるこのような空間において、発生要因である資本主義の合理性に逆らうことなく、「関係性に基づき、歴史的で、アイデンティティを考慮した」場所や公共性を獲得できるか、ということにあります。その問いに対し、4 つのスケール (グローバル、メトロポリタン、リージョナル、ローカル) の問題としてこれらの空間を捉え、検討し、設計してください。グローバルスケールに対応するものとして、ロジスティック、ツーリズム、エコロジー等、メトロポリタンスケールに対応するものとしてインフラ等、リージョナルスケールに対応するものとして、地域産業、文化等、ローカルスケールに対応するものとして近隣等、異なるスケールを横断しながら考えてみましょう。既成概念にとらわれない、自由な発想を期待しています。

設計条件

用途：ショッピング・モール、交通ターミナル (公共バス、タクシー等)、客船ターミナル (対岸への定期便各種、観光クルージング等)、駐車場、 α (設計者による任意のプログラム)

規模：容積率 500%、高さ制限なし。

敷地面積：41,000 m²

敷地状況：平坦地

道路幅員：西側 25m

駐車台数：1 台/100 m²

3. 敷地

本課題敷地は、上海市中心部を流れる黄浦江の西河岸沿い、外灘南部に位置する長さ約 600m の敷地です。外灘では、現在、都市の親水性向上を目的とした自動車道路の地下埋め込み工事を進めており、1 年後には、カー・フリーな歩行者専用空間が誕生する予定です。

敷地西側には、倉庫・駐車場群を挟んで老上海の町並みがいまだ存在し、観光地としても有名な豫園が位置しています。地下鉄豫園駅が現在建設中で、本計画敷地は、将来的に公共的なアクセスが盛んになると予想されます。敷地南部には、公共バスターミナル、川沿いに対岸との行き来を目的とした客船ターミナルがありますが、将来は緑地化されると想定してください。現行の公共バスターミナル、客船ターミナル機能は、本計画内に移動するものとします。黄浦江を南に4キロほど上った対岸には、来年開催予定の世界博覧会会場が位置しています。以上のように、本敷地は、さまざまな都市・建築的スケールが交錯する場となっています。(添付資料参照)。

4. 課題の進め方

本課題は、2人一組のチームプロジェクトとします。